

2023 年度 学校法人 三幸学園 東京こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島 英和

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教務】

・退学率低減 目標 7%以内 に対し 6.5% (R4:8.3% R3:7.7% R2:7.2%)

【就職】

・就職率 目標 100%に対し100%

・業界内就職 こども総合学科 目標 94% に対し 98%

保育科 目標 93% に対し 100%

【教務】退学率の目標は達成できたが、出席率や学校満足度は課題が残る結果となった。

【就職】就職率および業界内就職の目標達成はできたが、学校全体で行う就職イベントへの参加率においては課題が残る結果となった。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・ 業界の動向や求める人材像を正確に捉えた学校教育への具体的な反映。
- ・ 教育課程に応じた教科間連携。

② 今後の改善方策

- ・ 保育現場との関係構築及び情報の視覚化とタイムリーな情報共有。
- ・ 学年のステップを意識した教育体系の構築、教育内容の改善。

② 特記事項

- ・ 教職員には、教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を体系化し、年3回の全体会議内での研修、ポスター掲示等により周知。
- ・ 生徒への理念の浸透に向けて、入学直後のスタートアッププログラム研修や、教室内ポスター掲示し、HR 等での継続的な周知。
- ・ 授業内で業界の方々及び卒業生の講話を複数回実施することで業界の魅力付けを行い、業界ニーズに合わせた技術・人材育成指導に反映。
- ・ オープンキャンパス保護者説明会や入学予定保護者向けに学校カリキュラム等説明を実施。
- ・ 文京区内保育園との連携による模擬授業の実施。
→各コースの授業のみならず他学科・他学年においても保育園連携授業を実施。
- ・ 学年のステップを意識した教育体系を構築(教育体系シート)。ホームルームで振り返りの機会も設けている。

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・ 分業に伴う担任／事務／講師間のスムーズな情報共有。
- ・ 情報システムを導入することでの教職員のリテラシーを高め、より効率化を図ること。

② 今後の改善方策

- ・ 個々の能力に応じた適材適所の校務／業務配置(人材育成と業務の見直し)。
- ・ 情報共有システムを構築し、タイムリー且つ効率的な業務遂行ができる仕組み作り。
- ・ 新任教職員に向けた情報リテラシー向上のための研修。

③ 特記事項

- ・ 運営組織は、理事会・評議員会を適切に開催。必要な審議を行い、議事録を作成している。
- ・ 学校運営は、学園組織図、学則、校務分掌表に示している。学則は必要に応じて学則変更を行い、校務分掌表は年度ごとに内容や構成員を見直している。
- ・ 採用は、関係法令により教員資格が定められている分野は、規定通りの人材を確保。他の分野においては必要要件を満たした人材を確保。
- ・ 情報管理においては管理体制を強化している(Office365 の活用及び事務職員により徹底管理)。
- ・ 出席管理等の WEB システムを導入し、成績管理における効率化を図る。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・キャリア教育の充実、職業を見据えた講師全体の授業力向上(授業力の差)。
- ・実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)における各教科との連携。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケートを活用し、個々のスキル向上を図る(課題を明確に把握し、全体のスキルアップを図る)。
- ・実技科目(ピアノ・実習指導等)において複数の教員での授業実施の継続(ティーチングアシスタントの活用)。
- ・各教科チームを組み、実践力向上のための情報共有や意見交換の場を作る(教科会の実施)。
- ・行事活動を通じて、臨機応変さや現場に適した思考力を磨く教育活動を提供する。

③ 特記事項

- ・年3～4回の教員研修、授業見学月間の設置等、授業や指導力向上に向けて取り組んでいる。
- ・年2回の「授業の進め方アンケート」、「学校生活アンケート」を実施し、副校長(教務課長)や担任指導者よりフィードバックをし、改善につなげている。

- ・ 成績評価、単位認定は「学則」及び「教務ハンドブック」に従い、厳正に行っており、学生には初回授業にて担当教員から授業計画とともに直接説明をしている。
- ・ 生徒対象で各科目授業アンケートを実施し、その結果から読み取れる良い授業、面白い授業、成功事例を教員間で共有し、各授業に反映する意識付けをおこなっている。
- ・ 生徒自身も学習の意欲を持てるように学びを主体的に取り組み、成長実感が持てているかのアンケート実施。
- ・ 保育技術以外の人材育成に伴う知識・姿勢の意識付けを行うための授業を複数教員で実施している。
- ・ 同法人内の保育園施設と連携し、先端技術を活用した教材の開発を行っている。
- ・ ボランティアサークルを継続し、生徒が主体的に実践力を学べる機会を提供。
→子育て支援活動も継続実施により文京区内親子の利用者増。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・ 退学に至るまでの状況把握・適切な対応等の担任力(スピードを持った保護者や他の教員の巻き込みなど)。
- ・ 卒業生の就労状況(活躍や継続)の把握。
- ・ 在学中におけるキャリア形成の指導及び社会人基礎力を含めた社会人育成。
- ・ 資格取得に向けた授業力・担任力の向上(実践力・社会人基礎力の指導)。

② 今後の改善方策

- ・ 退学事例報告会の定期的な実施や学生情報の迅速な共有。
- ・ スクールカウンセラーによる教員勉強会及び担任を中心とした教科担当教員の連携と声かけ。
- ・ 個別の学習フォローが必要な生徒に対する支援体制を構築。
- ・ 教職員の情報共有システムを導入し、タイムリーに情報共有を行うことで生徒支援体制を構築。
- ・ 卒業生向けに定期的な LINE 配信を行い、就労相談等に対応できる環境づくり。

③ 特記事項

- ・ エリア担当教員を配置し、担任と2名体制で就職をサポートしている。
- ・ エリア担当制により、卒業生や在校生の実習就職評価を直接ヒアリングし、指導に反映している。
- ・ 退学防止については、担任定例会議で対応が難しい生徒状況を共有、様々な視点から対応策を考えている。
- ・ スタートアッププログラム以降も定期的に新入生と先輩が交流を持ち、学校生活や学びに不安を抱えている学生に対し、継続的にアプローチをしている。
- ・ 実習から就職につながるステップを作るためにボランティア及び実習園を過去の実績に基づき一覧にて掲示し、可能な限り卒業生や学校として付き合いのある園を選択していくように指導している。
- ・ 学内での就職説明会にて卒業生による在学中の学びと長期就労に向けた指導の実施。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業後の卒業生支援体制、同窓会組織の強化。
- ・キャリア教育・職業教育の取り組みの強化。
- ・アルバイト・ボランティア含め関係施設との連携や関係構築。

② 今後の改善方策

- ・就職ガイダンスにおける保育現場の先生からのキャリア案内(定期的な就職ガイダンスを実施)。
- ・学園内保育園との連携・情報共有強化。
- ・卒業生支援として年2回、新卒対象のアンケートを実施予定。
- ・「ももいく」サイトの活用、在学中からの登録促進。
- ・ボランティアサークル「KODOMONS」の活動強化。
- ・2023年度卒業生 同窓会の実施。

③ 特記事項

- ・専属のスクールカウンセラーを設置(3名体制)。
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ“Sanko Link”の浸透・活性化。
→Sanko Gateも情報発信ツールとして浸透・活性化予定。
- ・ボランティアサークルを通じ、学生が実践力を向上できる場を提供。
- ・ボランティア活動幹旋のための文京区社会福祉協議会との連携。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・学外インターンシップ等の関係構築施設の増加。

② 今後の改善方策

- ・ボランティアや実習巡回を通じて、関係性を持てる園を増やしていく。

③ 特記事項

- ・施設・設備は、平面図、備品台帳などの書類により管理できている。
- ・全教室にプロジェクターとスクリーン、スピーカーを配置することにより、積極的に OA 機器を利用した授業が出来る環境を作っている。
- ・学外実習は、各学科のカリキュラムに位置づけて実施しており、実習担当と実習教科担当により毎年基本方針と年間計画が見直されている。
- ・実習中は、エリア担当教員が定期的の実習先を訪問し、学生の状況を把握すると共に担任とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
- ・防災対策は、建物全体のものとして「消防計画」等に基づいて、防災体制の整備、備蓄品の補充、基本的な体制を十分に整備している。
- ・防火管理者、施設管理責任者等の予防担当者を適切に配置し、必要に応じてその任命を再確認している。消防設備点検により指摘のあった箇所は速やかに改善を行っている。非常時の動きの確認等、HR 等を通して担任から伝達・指導・訓練の実施をしている。また避難経路については教室、情報共有システムにて避難経路を常時掲載している。
- ・三幸学園の本郷地区のみの学校にて防災マップの作成、配布。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を意識した募集活動。
- ・広報(募集活動)時からの保育業界への意識付け・教育体系の浸透。

② 今後の改善方策

- ・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う。

③ 特記事項

- ・地域に設置されている広報室との連携を強化し、ニーズに合った情報の提供ができるよう取り組んでいる。
- ・中学生の学校見学や、高校1・2年生向けの広報活動において、職業理解を深め、保育者を目指してもらえることも意識している。
- ・広報活動では同法人内の園見学を実施し、実際の職業の魅力を伝えている。
- ・学納金及び奨学金制度、学費減免制度については、社会情勢を踏まえて毎年、検討を重ねている。学納金の設定については妥当なものであると考えている。学納金等徴収する金額はすべて募集要項に明記している。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・ 更なる法令遵守の推進.

② 今後の改善方策

- ・ 会議や掲示等を通じて、全ての職員が法令遵守に対する啓蒙を継続的に図れるよう働きかける。

③ 特記事項

- ・ 在学生に対しては、初回の HR において、「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活、喫煙等について、法令遵守の視点から周知している。また、在学生に対しては HR や授業にて、ネット利用の注意点を継続的に伝えている。
- ・ 自己点検・自己評価に関しては文部科学省ガイドラインに従った情報公開を実施する予定。
- ・ 自己点検・自己評価の材料である「授業アンケート」は、学校平均と共に全教員へフィードバックしている。
- ・ 学校平均、三幸学園全体の平均に関しては全教員へ公表し振り返りを行っている。
- ・ 「卒業生アンケート」に関しても同様、三幸学園全体の平均と本校の結果を、年度初めの全体会議で公表し教員全体での振り返りを行うことで、次年度へ活かす材料としている。
- ・ 年3回の教職員の会議にて個人情報や法令順守に関する勉強会、認識統一の場を設けている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・積極的な地域向けの公開講座、地学・教育連携の向上。
- ・ボランティア活動実施のための地域・園・施設との関係構築、受け入れ先の拡大。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動の積極的な斡旋。
→法人単位での関係構築を強化。
- ・子育て支援の継続実施およびニーズに合わせた事業内容の展開（地域開放・文京区への貢献）。

③ 特記事項

- ・使用していない教室、廊下の電気は細目に消すことを徹底することを学生、教職員に協力を要請し、電力使用量の節減のために取り組んでおり、使用量報告も行っている。
- ・職業訓練への受け入れ（2021年度4名、2022年度10名、2023年度15名）。
- ・SDGsを意識した授業展開や生徒への意識づけを行っている。
- ・子育て支援活動の“ひだまりルーム”を週1回開催（見込）。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

人材育成方針や具体的な施策が立てられているので、今後授業や行事を通してどのくらい生徒に浸透させていくことができるかが課題である。

施策を実行できれば、在学中の退学率だけでなく、卒業生の離職率低下にも繋がり、業界全体の活気も取り戻すことができるのではないかと考える。今後も学校と企業との連携を深め、保育業界の魅力を学生に伝えていくことは必要不可欠である。

授業や実習を通じて、保育現場でキャリアビジョンを描いていける人材ができる専門学校の運営を目指して欲しい。